

KSKP えのき

NEWSLETTER

地域で当たり前暮らしのために

編集人：社会福祉法人えのき会
理事長：古川 末子
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8
075-605-0303 (TEL)
075-605-0310 (FAX)
e-mail: info@enokikai.or.jp
http://enokikai.or.jp

理念実現に向けた新たな一歩

統括部長 村上高久



1984年8月20日第3種郵便物承認 毎月(1・2・3・4・5・6・7・8の日)発行 定価100円

榎の家新棟が竣工して一〇年が経過しました。それまでは、地域活動支援センター・居宅支援・短期入所事業を展開し、一日の利用者数は十数名程度でした。新棟が完成し生活の拠点であるホーム事業も稼働し、通所者も毎年利用数が伸び、四年後には二カ所目となるホームとさくらの家を整備しました。

この間、常勤の支援職員も約三倍の六〇人を超え、組織としてのあり方も問われる規模になりました。管理職への登用等、組織改編を昨年度から計画的に実行し、職員アンケート結果を受け、労働環境の改善に取り組み、誰でも働きやすく職員にとっても生き甲斐を感じられる組織を目指しています。

しかし、人材確保は容易でなく、特に男性は厳しい現状です。明るい見通しも望めず、サービスを拡充するには、人材を集中させ効率化を推進させることが重要と考え、榎の家がある桃山地区に事業所用地を確保しました。

一方、少子高齢化、人口減少社会等の社会情勢の変化に伴い、社会福祉法人として果たすべき役割が問わ

れています。法人設立者の思いである「重い障害があっても、地域の中であたりまえに暮らす」ことのできる社会の実現。

それは、国が掲げる「共生社会」でもあり、障害のある方のみならず、地域の福祉ニーズを把握し、貧困格差の是正、生活困窮者への支援が求められています。

地域の発展にいかにも貢献できるか、新たな事業所用地ではそういった視点を取り入れ、建設計画を練り上げる考えです。

この一〇年で大きく変化したことがあります。ホーム入居者の食事の形状です。三〇代で入居された方も四〇代となり、当初普通食や刻み食であった方々も、ほぼペースト食となり、それぞれの嚥下機能にあわせトロミ剤を使い分け加工が必要となりました。さらに、唾液を誤嚥し肺炎を患い、気管切開の手術をされ、日常的に医療的ケアが必要となられた方もおられます。

他の入居者も、今後避けてとおれない人生を歩むなかで、向き合わなければならぬ日が来ると思われま

えのき会が医療的ケアを必要とする方の人生に、どのような形で寄り添うことができるのか、明確にお示しできていない訳ではありません。支援に関わる職員の不安もあるでしょう。葛藤を繰り返しながら、目を背けることなく一歩一歩積み上げていきたいと思えます。

私は壁に突き当たった時、いつも原点にかえて考えることにしています。障害福祉に係わるきっかけとなった大学の先輩の笑顔。一軒一軒子ども宅をまわり障害児の療育キャンプを始められた恩師から学んだ「開拓的精神」。「最も援助の必要な最後の一人の尊重」「可能性の限らない追求」の基本理念を掲げ重度障害者支援組織を率いられた偉大な先人からは、理念実現に向けた実践の重要性。

それらのことに思いをはせながら、これまで同様、学生時代からおつきあいのある方々と共に、歩んでいける道を拓くことが私の使命と考えています。

新たな事業所を整備する事で、えのき会関係者が夢と活力をもてるよう、役員・職員等から幅広く意見をもとめ建設計画を取りまとめる予定です。

みな様からのご意見並びに建設費へのご支援を、どうかよろしくお願ひ申し上げます。

「困ったとき、うちに、おいでよ〜!」



WELCOME





グループホーム10年を迎えて思う

—グループホームは終の棲家になるのか?—

えのき会のグループホーム「ハックベリー」が、開所して10年、「ベル」は、6年目を迎えます。30年近い昔になります、障害者の入所施設をいくつも見学した時、そこでの50人、百人という集団の暮らしに違和感を覚えたことが、一つのきっかけでした。

「重い障害があっても、地域での暮らしをめざして」

今は、職員に支えられながら、個々のニーズに寄り添い、生活の質を落とすことなくホームの暮らしが進められています。

重度重複の障害があるため、年齢より早く訪れる体調の変化やアクシデントにも対応してもらいながら、当初の入居者が、一人も入れ替わることなく、今日まで暮らせてこれだけたことを嬉しく思います。

障害の重い人にとって、あたり前に過ぎる日々の暮らしが、あたり前に積み重なっていくことが、どれほど大切であり、どれほど、難しいことであるかを、開所時から見てきて思います。

何事もなく過ぎていく日常が、介護職員をはじめ、多くの職員たちの不断の努力と細やかな配慮があつてこそ成り立っていることに、あらためて感謝したいと思います。

知的障害のある人から始まったグループホーム制度も、国が「施設から地域へ」と方針を示し、それぞれの暮らし方を選択できるようにしたものの、重度の重複障害や重症心身の人たちにとっては、多くの選択肢はありません。

そんな中で、グループホームは、「地域で暮ら

す」ためのツールとして、期待は、より広がっています。そういう意味でも、今後グループホームが、安心して一生を託していける終の棲家になるかどうかです。

障害のある人や家族の願いで、グループホームの暮らしが始まったものの、最後になって従来の入所施設に戻っていくという事例も、多くあります。

介護を担ってきた家族の高齢問題と、障害のある人の年齢による更なる重度化の問題は、隣り合わせの大きい課題ではありますが、国や自治体は、見て見ぬふり?の感があります。あとのことは、運営する事業所任せになっていることも、問題を先送りしています。

利用者や家族の望みとして、現在、暮らしすホームで、仲間や介護者、そして医療従事する人たちに支えられながら、最後まで、安心して普通の生活が送れることです。

加齢などの障害の更なる重症化は、医療との関わりがこれまで以上に密になっていきます。そんな利用者の暮らしをサポートしていくために、高齢、障害の制度の枠を超えて、小さな圏域(エリア)の中で、専門性を持った医療・看護者に、いつでも往受診が可能な体制と、その上で、安心サポートとして、看取り介護やターミナルケアの体制が整備されること。介護職員のための看取りケアの研修も、ぜひ、実施してほしいものです。

福祉の介護職員のやる気だけを頼りに、急場をしのいでいる現状がある限り、「地域のあたり前の暮らし」は、絵に描いた餅で終わります。

【入居者(家族より)】 *****

グループホームという、暮らし方の大きな転換に戸惑いと不安の連続でしたが、10年という月日は、本人を理解してもらったための必要な時間であっ

たようです。今では、集団生活の中で、個人の生活の質を確保してもらえて、安定感もてるようになりました。「えのきがあつてよかった」。

「えのきでなければ今の生活はない」と確信しています。これからも、個人を大切に、必要とする支援を続けて下さることを願っています。

帰宅した時に、今までと変わらない笑顔でいてくれます。支えて下さる職員さんに感謝です。

・親が体調を崩しましたが、ホームで元気に楽しく過ごしていることが一番嬉しいです。

・家族に大きい変化がありました。6年を迎えることができ感謝します。

・ホームで自分の居場所を見つけ、元気でいけることが嬉しいです。じっくり関わって下さっている職員さんに感謝しています。

・言葉で伝えることができなくても、グループホームの暮らしが、もう一つの居心地の良い場となっているのを感じます。

これから起こるであろう様々な変化を、どう乗り越えていくのか、家族にも、法人側にも、覚悟が求められています。えのき会のホームが、より良い安住の場となるために、これからも力をお貸しください。

自らの人生を顧みる暇もなく、長い年月、障害のあるわが子を介護してきた親(母)たちに、最後の「安心」が届けられることを願っています。

(理事長 古川末子)



娘とわたしのこれから

西村晶世さん



先日えのき会のカフェに参加させて頂きました。色んなお話の中で5年後、10年後を考えてみるというお話がありました。

具体的な事は考えられず、どうなるのかなと不安になりました。

私の娘は今年で22歳になりました。2人の弟がいます。将来は2人の世話になることなくアイロボットが、私とちひろを世話してくれないかなと、現実離れな事を考えています。

娘は生まれた時、羊水をうまく吐き出せず、「おぎゃー」と一度泣いただけでしたが、育つうちにパニックを起こしては大泣きし、なかなか泣き止まない娘になっていました。

首が座るのも立つことも歩くことも遅く、早くから知的障害、発達遅滞、自閉症と診断を受けていました。四肢体幹機能障害とも診断されました。

幼い頃パニックを起こして大泣きする娘は私の存在を認識してないようでした。抱っこしてもあやしてもずっと泣いていました。どうしたらいいのかわからず、イローゼになりそうでした。

でも時が過ぎて弟達が大きくなるにつれ娘も段々と泣かなくなり、いつの頃からか、母の存在が分かったのか落ち着いてくれるようになりました。今ではニコニコ笑顔を見せてくれ、アハハやウフフと声を出して笑う姿に癒されています。

話しかけたら笑ってくれる娘が年々可愛さをまして、いつまでもそばで一緒に暮らしていけたらと思うのです。

でもそうはいかないのです。私もいつまで世話をしつづけてあげられませんか。娘をいつどのタイミングで手放す？自立して貰う？のかです。

何も一人で出来ない、てんかんもある、女の子だし、心配でたまらない事、そして、とても私が寂しい事、そして自分だけが楽になるような気がして、娘に対して申し訳なさがあります。

もし娘が普通に生まれてきていたら、仕事をしていたり結婚してたりと自立していく歳ではあるのです。娘も親元を離れ新しい家、仲間と過ごしていくという風に考えようと思いましたが。

カフェに参加して前向きに考えられた事に感謝いたします。ありがとうございます。



知優さん



1月の書初め

息子は社会人！

三矢由紀子さん

息子が、社会人となって、えのきの家、さくらの家に通うようになり、約1年がたちました。今の生活リズムに慣れ、毎朝、出かける事を楽しみにしている様子の息子を見て、嬉しく思っています。

生まれて、障害があるとわかった頃は、この子のためになるならと訓練や母子通園施設に通って、日々余裕なく一生懸命に過ごしていました。

その後、通園施設に通わせるようになり、支援学校に入学して、私にも少し余裕が来て、息子もいろいろな人とのかわりの中で、少しずつ成長していきました。

それでも、ずっと私が何でもやらなといけないと思いついていました。周りに進められて、小学部の終わりころに、初めてヘルパーを利用し始めましたが、他の人に息子をみてもらうことに、この頃は、罪悪感を感じていました。

でも、息子が中学部、高等部と成長していくにつれ、親ではなく友達や先生とかわかることで、本人の世界が広がっていきんだと感じるようになり、親から離していけないといけないうのかな。と思うことができるようになりました。

身体も大きくなり介助することが大変になり、ますますまわりに頼ることが必要だと思えました。



佑悟さん

そんな様子のまま12年間の支援学級が終わって、社会人となり「大人」になっていくんだなあ。と実感してきた1年だったと思います。

この先、少しずつ子離れして、息子の人生、私の人生とともに充実させていくには、何ができるのか。なにをしていけばいいのかということ、最近ようやく考えるようになりました。

これからも、息子が生活していく中で、まだまだいろいろな問題が出てくると思いますが、えのきの方々をはじめ、息子にかかわって下さっている人たちと協力して、その都度ひとつひとつ解決していけたらいいなと、思っています。

まだまだ、未熟な親子ですが、引き続きこれからもよろしく申し上げます。



カラオケ



ハウステンボスへ旅行 (2泊3日行程)

グループホーム・ハックベリー

「ハックベリー」では、これまで3回、デイズニールンド旅行に行きました。今回は、行先を西に変えて、ハウステンボスと決まりました。



今回は、旅行計画の段階から経験年数の浅い若手の職員も参加し、旅行にも初めて付き添うという、大きな経験をしました。3日間の日程を終え、無事、ハックベリーに帰り着いた時、みんな疲れた様子も見せず良い笑顔でしたので、ホッと一安心！



久しぶりの新幹線と貸切りフト付バスということもあって、楽しいお喋りと、車窓からの景色を楽しむうちに到着です。

ハウステンボスでは、仮面舞踏会を観たり、船に乗ったり、お土産を買ったり。ゆったりとした時間を過ごしました。

ホテルでの食事はビュッフェスタイルで、事前に選んだものを摂食しやすい形状に加工してもらっています。一味違うホテルの食事を、いつもより、こぼすことも咽することも少なく、何度もおかわりしたりした人もいます！

2日目、昼食に博多駅にある個室の中華料理店へ。ここでも、お料理を食べやすく加工。ラーメンまで食べやすい形状にもらって、美味しいウーロン茶も頂き、みんな大満足でした。



今回は、旅行計画の段階から経験年数の浅い若手の職員も参加し、旅行にも初めて付き添うという、大きな経験をしました。3日間の日程を終え、無事、ハックベリーに帰り着いた時、みんな疲れた様子も見せず良い笑顔でしたので、ホッと一安心！

あらためて「旅行に行けたことが、良かった」と思いました。旅行の先々で、心優しく、そして温かく対応してもらえたことが、なにより思い出に残る旅行となりました。

2泊3日の旅行は、年齢的にも体力的にも、今回が最後となりそうですが、次回も、また違った楽しみが味わえる企画を、みんなと一緒に計画したいと思います。

(井上智尋・相根菜摘美)



えのき会 次の一歩にご支援ください！

今、社会福祉法人に「地域における公益的な取組」を積極的にアピールし進めていく役割が求められています。

えのき会も、2月に新たに土地を取得しました。地域の中の見えにくいニーズを掘りおこし、それにできるだけ応えていくことが、社会福祉法人としての務めでもあります。

現在、利用されている人たちが、地域の方たちと一緒に進めていければと考えています。

「困った時は、うちに、おいでよ！」と。

今年も、えのき会へのご支援、よろしく申し上げます。

- ☆ 同封致しました赤色の郵便振替用紙をご利用ください。
- ☆ 当法人発行の領収書は、確定申告で寄附金の控除が受けられます。

社会福祉法人えのき会 00920-6-106339

1口 1000円 となっています。1口以上でお願い致します。

編集後記

この春に、4名の女性職員が、育休明けで戻ってくる予定です。

フランクのあとの職場復帰、わが子の保育園デビューという、嬉しさと不安がないまぜになって、ワーママ(ワーキングマザーの略)の心中は、たぶん複雑なものがあると思います。

法人としても、できる限りサポートしていきたいと考えています。より女性が働きやすい職場を目指して。

「離職、休職中は、決してキャリアの中断ではなく別のキャリアの蓄積だと考えればよい。なぜなら、そのあいだに経験している家事、育児、介護等の生活としての体験は、性別を問わず、必ずその人のキャリアを豊かにしているはずですから」 『女たちのサバイバル作戦・上野千鶴子』

そう考えると、子どもの大切な成長の時期に、女性も男性もゆくり関わること、人として視野が広がっていくはず。

あと、法人としての体力は問われますが…。

(f)

□ 発行人・関西障害者定期刊行物協会
大阪市天王寺区真田山町2-2
東興ビル4F



□ 編集人：(福) えのき会 理事長 古川末子
(法人本部)
〒612-8002
京都市伏見区桃山町山ノ下44-8